

## 出題意図・解答のポイント

研究科	理工学研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	一般入学試験
筆記試験科目	専門科目
<p>関西大学大学院理工学研究科では、「3専攻のそれぞれのコンセプトである『しくみづくり』『まちづくり』『ものづくり』を背景に、先端知識や新技術の背後にある現象の本質を理解できる能力、技術的課題に対してハード面だけではなくソフト面からもアプローチできる能力、物質の機能を様々なシステムやデバイスの中で発揮させる能力を涵養し、技術社会システムの先端的研究課題を理工学的に解明できる力を有し、国際的舞台上で次代の産業界をリードできる有能な人材の育成を目標とした教育」を理念として掲げている。以下のアドミッション・ポリシーに沿って大学院生の受け入れを行い、その方針を踏まえて入試問題を設計している。</p> <p>&lt;アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学士課程で修得した理工学の基礎となる学力を基に、専攻した専門分野を中心とする専門的な知識・技能を修得している。</li> <li>2. 学士課程における学習を通じて、グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、「考動力」を発揮して社会に貢献できる。</li> <li>3. 特定の学問領域を主体的に学んでいく強い意欲を持っている。</li> </ol> <p>「出題の意図」</p> <p>本研究科の入試問題は、上記ポリシーを具現化するために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力と専門知識の確実な定着（ポリシー1）</li> <li>・論理的思考力と主体的・協働的姿勢（ポリシー2）</li> <li>・研究意欲と学問探究心（ポリシー3）</li> </ul> <p>を総合的に評価できるよう設計している。単なる暗記ではなく、知識の背景にある原理・法則を理解し応用できるか、さらに自らの考えを論理的に説明できるかを重視している。</p> <p>「解答のポイント」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎事項の正確な理解と運用 定義・法則・公式を誤りなく示し、前提条件や単位系も明示する。</li> <li>2. 論理展開の明確化 計算過程・推論過程を端的かつ体系的に記述し、結論との論理的整合性を示す。</li> <li>3. 応用力と課題発見力 与えられた条件を抽象化し、他分野の知識と組み合わせて柔軟に解決策を導く姿勢を示す。</li> <li>4. 主体性とコミュニケーションを意識した記述 図表や数式を適切に活用し、読み手に伝わりやすい構成を心掛ける。</li> </ol> <p>本研究科の大学院入試は、入学後に高度な研究活動へ主体的に取り組める学生を選抜することを目的としている。出題の意図と解答のポイントを理解し、自らの強みを的確に示す答案作成を期待する。</p>	

## 出題意図・解答のポイント

研究科	理工学研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	一般入学試験
筆記試験科目	外国語(英語)
<p>理工学研究科では、理工系分野においてグローバルな視点を持って活躍できる人材を育成することを目的としており、外国語(英語)科目では、専門的な研究や国際的な情報収集・発信に必要な英語力を評価しています。</p> <p>英語試験は、アドミッション・ポリシーの第2項に掲げられている「グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、『考動力』を発揮して社会に貢献できる能力」を備えているかを確認するための重要な評価手段です。</p> <p>「出題の意図」</p> <p>本試験では、理工系の専門分野に関連する英文を素材とし、受験者が</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術的・学術的な英文を正確に読み取る力</li> <li>・研究内容や論理の展開を英語で理解・要約する力</li> <li>・英文を通じて得た情報を活用して自らの考えを構築する力</li> </ul> <p>を有しているかを評価します。英文読解だけでなく、語彙・文法・論理構造への理解も含め、将来の国際的研究活動を見据えた英語運用能力の基礎を測ることが目的です。</p> <p>「解答のポイント」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文脈に即した正確な読解             <p style="margin-left: 20px;">専門用語や学術的な構文に対しても、文脈を踏まえて適切に意味を把握する力が問われます。</p> </li> <li>2. 要点の把握と論理的な整理             <p style="margin-left: 20px;">複数段落にわたる文章から、主張や根拠、因果関係などを論理的に整理し、設問に対応する内容を的確に選び出すことが求められます。</p> </li> <li>3. 語彙力と文法理解             <p style="margin-left: 20px;">設問には語彙の意味判断や文法構造に関する問いも含まれるため、基礎力を確実に身につけておくことが重要です。</p> </li> <li>4. 英語的発想での記述(自由記述式問題がある場合)             <p style="margin-left: 20px;">自らの考えを英語で簡潔かつ論理的に表現する能力も評価対象となります。曖昧な表現を避け、構文の正確さと一貫性のある論理構成が求められます。</p> </li> </ol> <p>英語力は、国際会議での発表や英文論文の読解・執筆など、大学院修了後のキャリアにも直結する重要な能力です。本科目を通じて、単なる試験対策ではなく、将来を見据えた「実践的英語力」の基礎を確認することを意図しています。</p> <p>なお、分野によってはTOEICまたはTOEFLのスコア提出をもとに、当該科目の得点に換算する場合があります。詳細は募集要項を参照してください。</p>	

## 出題意図・解答のポイント

研究科	理工学研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	外国人留学生入学試験
筆記試験科目	専門科目

関西大学大学院理工学研究科では、「3専攻のそれぞれのコンセプトである『しくみづくり』『まちづくり』『ものづくり』を背景に、先端知識や新技術の背後にある現象の本質を理解できる能力、技術的課題に対してハード面だけではなくソフト面からもアプローチできる能力、物質の機能を様々なシステムやデバイスの中で発揮させる能力を涵養し、技術社会システムの先端的研究課題を理工学的に解明できる力を有し、国際的舞台上で次代の産業界をリードできる有能な人材の育成を目標とした教育」を理念として掲げている。以下のアドミッション・ポリシーに沿って大学院生の受け入れを行い、その方針を踏まえて入試問題を設計している。

＜アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）＞

1. 学士課程で修得した理工学の基礎となる学力を基に、専攻した専門分野を中心とする専門的な知識・技能を修得している。
2. 学士課程における学習を通じて、グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、「考動力」を発揮して社会に貢献できる。
3. 特定の学問領域を主体的に学んでいく強い意欲を持っている。

### 「出題の意図」

本研究科の入試問題は、上記ポリシーを具現化するために、

- ・基礎学力と専門知識の確実な定着（ポリシー1）
- ・論理的思考力と主体的・協働的姿勢（ポリシー2）
- ・研究意欲と学問探究心（ポリシー3）

を総合的に評価できるよう設計している。単なる暗記ではなく、知識の背景にある原理・法則を理解し応用できるか、さらに自らの考えを論理的に説明できるかを重視している。

### 「解答のポイント」

1. 基礎事項の正確な理解と運用  
定義・法則・公式を誤りなく示し、前提条件や単位系も明示する。
2. 論理展開の明確化  
計算過程・推論過程を端的かつ体系的に記述し、結論との論理的整合性を示す。
3. 応用力と課題発見力  
与えられた条件を抽象化し、他分野の知識と組み合わせで柔軟に解決策を導く姿勢を示す。
4. 主体性とコミュニケーションを意識した記述  
図表や数式を適切に活用し、読み手に伝わりやすい構成を心掛ける。

本研究科の大学院入試は、入学後に高度な研究活動へ主体的に取り組める学生を選抜することを目的としている。出題の意図と解答のポイントを理解し、自らの強みを的確に示す答案作成を期待する。

なお、専門科目を課さない分野は、口頭試問において専門に関する試問を行います。詳細は募集要項を参照してください。

## 出題意図・解答のポイント

研究科	理工学研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	外国人留学生入学試験
筆記試験科目	外国語(英語)

理工学研究科では、理工系分野においてグローバルな視点を持って活躍できる人材を育成することを目的としており、外国語(英語)科目では、専門的な研究や国際的な情報収集・発信に必要な英語力を評価しています。前期課程の留学生入試における「英語(外国語)」科目は、その一環として、多様な言語的・文化的背景をもつ受験者が、専門的な研究活動を英語で遂行するために必要な基礎的英語力を有しているかどうかを評価することを目的としています。

英語試験は、アドミッション・ポリシーの第2項に掲げられている「グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、『考動力』を発揮して社会に貢献できる能力」を備えているかを確認するための重要な評価手段です。

### 「出題の意図」

本試験では、理工系の専門分野に関連する英文を素材とし、受験者が

- ・技術的・学術的な英文を正確に読み取る力
- ・研究内容や論理の展開を英語で理解・要約する力
- ・英文を通じて得た情報を活用して自らの考えを構築する力

を有しているかを評価します。英文読解だけでなく、語彙・文法・論理構造への理解も含め、将来の国際的研究活動を見据えた英語運用能力の基礎を測ることが目的です。

### 「解答のポイント」

#### 1. 文脈に即した正確な読解

専門用語や学術的な構文に対しても、文脈を踏まえて適切に意味を把握する力が問われます。

#### 2. 要点の把握と論理的な整理

複数段落にわたる文章から、主張や根拠、因果関係などを論理的に整理し、設問に対応する内容を的確に選び出すことが求められます。

#### 3. 語彙力と文法理解

設問には語彙の意味判断や文法構造に関する問いも含まれるため、基礎力を確実に身につけておくことが重要です。

#### 4. 英語的発想での記述(自由記述式問題がある場合)

自らの考えを英語で簡潔かつ論理的に表現する能力も評価対象となります。曖昧な表現を避け、構文の正確さと一貫性のある論理構成が求められます。

英語力は、国際会議での発表や英文論文の読解・執筆など、大学院修了後のキャリアにも直結する重要な能力です。本科目を通じて、単なる試験対策ではなく、将来を見据えた「実践的英語力」の基礎を確認することを意図しています。

なお、分野によっては TOEIC または TOEFL のスコア提出をもとに、当該科目の得点に換算する場合があります。詳細は募集要項を参照してください。

## 出題意図・解答のポイント

研究科	理工学研究科
課程	博士課程後期課程
入試種別	一般入学試験
筆記試験科目	外国語(英語)
<p>理工学研究科では、理工系分野においてグローバルな視点を持って活躍できる人材を育成することを目的としており、外国語(英語)科目では、専門的な研究や国際的な情報収集・発信に必要な英語力を評価しています。</p> <p>英語試験は、アドミッション・ポリシーの第2項に掲げられている「グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、『考動力』を発揮して社会に貢献できる能力」を備えているかを確認するための重要な評価手段です。</p> <p>「出題の意図」</p> <p>本試験では、理工系の専門分野に関連する英文を素材とし、受験者が</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術的・学術的な英文を正確に読み取る力</li> <li>・研究内容や論理の展開を英語で理解・要約する力</li> <li>・英文を通じて得た情報を活用して自らの考えを構築する力</li> </ul> <p>を有しているかを評価します。英文読解だけでなく、語彙・文法・論理構造への理解も含め、将来の国際的研究活動を見据えた英語運用能力の基礎を測ることが目的です。</p> <p>「解答のポイント」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文脈に即した正確な読解             <p style="margin-left: 20px;">専門用語や学術的な構文に対しても、文脈を踏まえて適切に意味を把握する力が問われます。</p> </li> <li>2. 要点の把握と論理的な整理             <p style="margin-left: 20px;">複数段落にわたる文章から、主張や根拠、因果関係などを論理的に整理し、設問に対応する内容を的確に選び出すことが求められます。</p> </li> <li>3. 語彙力と文法理解             <p style="margin-left: 20px;">設問には語彙の意味判断や文法構造に関する問いも含まれるため、基礎力を確実に身につけておくことが重要です。</p> </li> <li>4. 英語的発想での記述(自由記述式問題がある場合)             <p style="margin-left: 20px;">自らの考えを英語で簡潔かつ論理的に表現する能力も評価対象となります。曖昧な表現を避け、構文の正確さと一貫性のある論理構成が求められます。</p> </li> </ol> <p>英語力は、国際会議での発表や英文論文の読解・執筆など、大学院修了後のキャリアにも直結する重要な能力です。本科目を通じて、単なる試験対策ではなく、将来を見据えた「実践的英語力」の基礎を確認することを意図しています。</p> <p>なお、本大学院工学研究科博士課程前期課程修了者および理工学研究科博士課程前期課程修了(見込)者は、外国語(英語)の「筆記試験」を免除します。</p>	